

学校の教育目標

- よく考え 表現する子
- ◎豊かな心をもつ子
- たくましく鍛える子
- 互いのよさを認め合う子

自らを切り拓き、未来社会を担う児童の育成を目指すために、「知・徳・体」のバランスの取れた教育活動を推進するとともに、多様性を認め合える資質や能力を育むことをねらいとする。その中でも、「豊かな心をもつ子」を今年度の重点目標とし、よりよい人間関係の確立に努める。



研究主題

自他を大切に、共によりよく生きようとする児童の育成  
～たのしい道徳の授業を中心として～



主題設定の理由

昨年度の児童への意識調査より、「自分にはよいところがあるか」という項目での肯定的な意見が7割に留まり、伸びしろがあることが分かった。今のありのままの自分を大切にでき、「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在だ」と思える児童の育成を目指し、研究主題を上記のようにした。道徳授業は、全教育活動おける道徳教育の要として、それらを補い、深め、相互の関連を考えて発展させたり統合させたりする役割を果たすことから、副主題を上記のようにした。

たのしい道徳の授業になる三要素

自己開示

例：「思わず語る」「積極的に伝える」「聞いて貰いたい」など、ありのままの自分を周りに伝えられているとき

多面的・多角的に考える

例：「なるほど」「そんなこと考えなかった」など新たな価値観への気づきをもったり、友達の発言を聞いて自分の考えに自信をもったりできたとき

自己を見つめる

例：「こう思う」「気持ち分かる」「私の～は正しかった」「～したい」など、道徳的価値の理解を基に自分事として考えたり、自分の生活を振り返ったり、どのような生き方をしたいか模索したりしているとき

研究仮説

自他を大切に、共によりよく生きようとする児童を育成するために、たのしい道徳の授業を「自己開示できる授業」「多面的・多角的に考えられる授業」「自己を見つめることができる授業」と定義する。たのしい授業に迫るための手立てとして、「児童を引き付ける教材提示」「ねらいと評価に沿った発問構成」「思考を深め広げる工夫」を講じる。それにより、児童は自分の内面を見つめ、様々な角度から思考し、自分の考えや経験を自然と伝えられるようになるであろう。それを35時間（一年生は34時間）積み重ねることで、児童がたのしく道徳の授業に臨み、自分の考えを広げ深めていくであろう。

主題に迫るための手立て

手立て1

児童を引き付ける教材提示

児童の興味関心を高める提示方法を検討する。児童一人一人の心が、教材に十分ひたれるようにして、教材を共感的に理解することを中心に、ねらいとする価値について「○○っていいな」と感じ取れるような工夫をする。

- 例
- 劇のような提示（紙芝居、影絵、人形、ペープサート等）
  - 音声や音楽の効果を生かした提示
  - ビデオなどの映像・ICTを活用した提示

手立て2

ねらいと評価に沿った発問構成

本時のねらいに直接迫る中心発問場面を検討する。次に中心発問場面をサポートする基本発問場面を二つ決める。そして児童の学習をどう促すのかの授業戦略を考える。そのあと三つの発問の問い方を検討し、予想される児童の反応を推測する。展開後段では前段で深めた道徳的価値の理解に基づき、自己を見つめ、自己の生き方について考えらえるような振り返りの発問の問い方や学習活動を十分に検討する。

手立て3

思考を広げ深める工夫

考えを広げたり、深めたり、整理したりするための工夫を講じていく。

- 例
- 話し合い活動の工夫（グループ学習、ペア学習、座席配置、指名方法等）
  - 書く活動の工夫（ワークシートやノートの活用、手紙を書く等）
  - 表現活動の工夫（動作化、役割演技など）
  - 複数の指導者による実践（TT、ゲストティーチャー等）